

メドハーストの諸辞典とその影響

宮田和子

The following dictionaries were compiled by W. H. Medhurst, a missionary sent to China by the London Missionary Society.

- 1) *A Dictionary of the Hokkeen Dialect*, 1832 (福建語辞典)
- 2) *Chinese and English Dictionary*, 1842-43 (華英字典)
- 3) *English and Chinese Dictionary*, 1847-48 (英華字典)

The purpose of this paper is to investigate their mutual influence, and to make clear how the Chinese words contained in them have been absorbed into subsequent dictionaries. Another point of importance is that the first English and Chinese dictionary published by a Chinese author used Medhurst's 英華字典 as its basis.

0. はじめに

ロンドン宣教会 (London Missionary Society) 所属の入華宣教師 モリソン (Robert Morrison 馬禮遜 1782-1834) は、3部6巻の大著『中国語字典』(1815-23)を著した。これを継ぐ形で、メドハースト (Walter Henry Medhurst 麥都思 1796-1857) の諸辞典が登場する。以後方言を扱うものを含めて、入華宣教師の手になる辞典が続々と現れる。これは来華する宣教師に中国語を修得させることが、中国での布教になにもまして重要なことと考えられていたためである。メドハーストにかかわる最近の研究には、『英和对訳袖珍辞書』との関係があつた呉 1988; 遠藤 1996, 1999; 主として学術用語の側面をとらえた沈 1994, 1999; 荒川 1997, 1998a, 1998b, 1999, 2001; 伝道史の視点からみた吉田 1997 などがあげられる。こうした先行研究をヨコの軸とすれば、本稿はタテの軸にあたるメドハースト諸辞典の相互関係をさぐることから始めたい。

メドハースト『華英字典』の漢字語は、康熙字典に依拠しながらも2字語からせいぜい4字語までを主体とする短いものだったが、その使い勝手のよさをかわれて、“康熙字典の翻訳”として愛用され、後続辞典に流入していった。井上哲次郎『訂増英華字典』(1883-85)はメドハーストを直接使用したものではないが、その増補訳語には、メドハーストにまでさ

かのぼることのできる訳語が数多く見出される(宮田 1999)。中国人自身の手になる初の英華辞典は、鄭其照の『字典集成』(1868)だが、メドハースト『英華字典』がその底本であることは、句型の見出し語が両書ほぼ完全に一致することで、証明することができる(宮田 1998)。メドハーストの諸辞典は日中双方の分岐点ともいえる、きわめて重要な位置にある。以下、その相互関係と後続辞典への影響を追ってみたいと思う。

1. 著者について

W. H. メドハースト(麥都思 1796-1857)は1796年4月29日ロンドンに生まれ、St. Paul's Cathedral School で教育を受けた。14歳のとき Gloucester に行き、見習い工として印刷を学んだ。W. Bishop 師に触発され、マラッカにおける印刷職人の募集に応じて、ロンドン宣教会(LMS)理事会の承認を得た。Collison 博士の Hackney College で数か月間宣教師としての訓練を受けたのち、1816年9月英国を離れた。

1817年2月10日、Madras に到着し、滞在中に Elizabeth Martin と結婚。6月12日任地のマラッカに到着して、ミルン(William Milne 米憐 1785-1822)の印刷業務を助ける一方、中国語とマレー語の習得、現地人の教育、伝道と活躍の場をひろげた。

1820年末メドハーストはペナンを訪れ、1年間の布教活動を行ったのち、パタビアに移り、以後20年ここを伝道の拠点とする。『察世俗毎月統記傳』を編集したミルンの遺志をついで月刊紙『特選撮要毎月紀傳』(1823-1826)を刊行した。

1830年メドハーストは、最初の英和・和英辞典 *An English and Japanese and Japanese and English Vocabulary* を著した。²⁾『特選撮要毎月紀傳』の廃刊後にこの辞典の編集にかかったと思われる。1835年 Gutzlaff, Bridgman とともに新約聖書を改訳、数年後旧約聖書を改訳した。これがのちの委員会訳の基礎となる。同年 *Translation of a Comparative Vocabulary of Chinese, Corean and Japanese Languages* をパタビアで刊行した。

アヘン戦争の翌1843年、南京条約によって開港した上海に移り、ここをあらたな拠点として、中国初の近代的印刷所、墨海書館(London Missionary Society Mission Press)を設立した(墨海書館の創設から終焉までの経緯は、沈国威 1999、解題 pp.6-15 を参照)。布教書、啓蒙書などの漢文著述約60点のほかに、主として中国事情を説いた英文著述が35点にのぼり、マレー語の著作もある。1853年には月刊紙『遐邇貫珍』(*The Chinese Serial*)を刊行した。1856年まで上海にとどまり、LMS 理事会の招請に応じて帰国し、1857年1月22日にロンドンに到着したが、2日後に急逝し、公葬により Abney Park 墓地に葬られた。³⁾

2. 福建語辞典(1832)

A Dictionary of the Hok-Këen Dialect of the Chinese Language, According to the Reading and Colloquial Idioms: Containing about 12,000 Characters, the Sounds and Tones of Which are

Accurately Marked;-- and Various Examples of Their Use, Taken Generally from Approved Chinese Authors. Accompanied by a Short Historical and Statistical Account of Hokkëen; a Treatise on the Orthography of the Hokkëen Dialect; the Necessary Indexes, &c. 扉には 1832 年刊行とあるが、実際には中断されて 1837 年に出版された。扉、献辞、公告、はしがき、福建省の歴史と統計、福建語の発音表記、本文 (pp.1-758)、部首一覧表、部首別索引からなる。本書は西洋人の編纂した英語の福建語辞典としては最古のものと考えられる。マカオで刊行された一巻本で、扉によれば約 12,000 字を収録している。1831 年東インド会社で印刷に付されたが、1834 年契約期限がきたため 320 ページで一時中断、1835 年予約者 100 名を獲得し、これをもとにオリファント社の資金提供をうけて印刷を再開、1837 年に出版された。

従来の辞典は 1828 年刊行のモリソン著 *Vocabulary of the Canton Dialect* (廣東省土話字彙)⁴⁾ 以外はすべて官話を対象としたものだった。中国本土をおとずれたことのない著者の交流の相手は、官界の人びとではなく、南部に移住してきた中下層階級にかぎられていた。そうした人びとは官話についてはまったく無知であり、かなりの地位の知識人でさえ、官話の修得にみきりをつけ、官界進出をあきらめることもあったという。

メドハーストはまず官話を学んだが、1818 年以降は福建方言にきりかえて、1820 年小さな語彙集を脱稿した。1823 年増補して、印刷のために Singapore Institution にまわしたが、同施設が経営困難におちいったので、原稿は手つかずのまま 1829 年再び著者のもとにもどされた。その後東インド会社を管理する特別委員会 (Select Committee) から援助の申し出があり、さらに数千字を追加して印刷に付した。本書は 1818 年に現地で発行された『五十音』に基づいて構成され、発音表記はモリソンのものを採用した。本書で採録した福建方言は漳州のもので、泉州でもあまり差はなく、広東省の潮州ではいくらかちがってくるが、話が通じないほどではない、という。多少の俗語は含むものの、大半は康熙字典など権威ある文献から用例を採集した、と「はしがき」にある (Preface v-x)。『中国語字典』の著者 R. モリソンとその息子 J. モリソンが校訂に加わっているので、『中国語字典』と『福建語辞典』には、つぎのように共通の用例や訳語がある。

- | | |
|-----------|--|
| 側 (モリ中国語) | 反側 a rebellious faction |
| (メド福建) | 使反側子自安 to make the rebellious people become tranquil. |
| 侵 (中国語) | 五穀不登謂之大侵 A deficiency in the five sorts of grain (a complete famine) is called Ta-tshin. |
| (福建) | 五穀不登謂之大侵 when the five kinds of grain do not come up, this is called a great calamity. |
| 依 (中国語) | 斧依 A kind of painted wooden screen in the Imperial apartments. |
| (福建) | 斧依 a kind of screen placed before a door or window to |

- prevent persons looking into an apartment.
- 儀 (中国語) 有儀可象 a deportment worthy of imitation
(福建) 有威可畏有儀可象 he has dignity sufficient to inspire terror,
and manners that may be set up for a pattern.
- 偽 (中国語) 作偽 To put on a false appearance
(福建) 作偽心勞 to practice deceit troubles the mind.
- 倭 (中国語) 倭人 a Japanese 倭遲 Appearance of returning home from a
distance 倭國 Japan
(福建) 倭人 a Japanese *倭遲 Japan (* '倭遲' と '倭國' の訳語をとりちがえ
たための誤り。メドハースト『華英字典』では訂正されている。
——引用者)

メドハーストはまた、本書の続編ともいうべき英華版の発行をかんがえていたが、実現した形跡はなさそうである(Should the author be spared to compose the Second Part of this Dictionary, viz. the English and Chinese, it is his intention to adduce, under each important word, a phrase from some English author and to give the sense of it in Chinese...(Preface x).

3. 華英字典 (1842-1843)

Chinese and English Dictionary; Containing All the Words in the Chinese Imperial Dictionary, Arranged According to the Radicals. 第一巻は扉、はしがき、本文 (pp.1-648)、廃字・略字・俗字表、第二巻は扉、本文 (pp.649-1486)、廃字・略字・俗字表からなる。

1842年南京条約が締結され、広州、福州、アモイ、寧波、上海の5港が開放され、イギリス人の居住と交易が認められた。本書はこうした事情を背景に、中国語の修得を希望するイギリス人を対象としたものであり、その目的は、音または意味をもたぬものを除いて (.....with the exception of those which have either no sound or meaning attached to them)、康熙字典に収録された漢字すべてを掲載することにあつた。配列は康熙字典にしたがって部首別だが、同一部首の同一画数に属する漢字は、発音に沿ってABC順となっている。

「人」の部の見出し字をもつ語を調べた結果 (調査範囲は A-G, U-Z)、『福建語字典』の152例のうち、本書とほぼ同義のものは61例 (40.1%) だった。

(福建)	(華英)
倅：畸於人而於天	greater than
	倅於天 equal to heaven
	men and equal to heaven
侮：侮聖人之言	to despise the
	- -

words of the sages	
債：負債 to be in debt.	負債 to be involved in debt
賣田宅鬻子孫以償債 to dispose	償債 to pay one's debt.
of fields and houses, and to	
sell children and grandchild-	
ren, in order to pay one's debts.	
尋常酒債行處有 common tavern	酒債 a tavern score.
scores for liquor may be met	
with in every place.	
借：假借納用 to borrow for use.	假借 supposing
有馬者借人乘之 those who had	- -
horses used to lend them to	
people to ride.	
草履不借 straw shoes need not	不借 straw sandals.
be borrowed.	

『華英字典』の前半は『中国語字典』の影響が著しいが、後半は康熙字典から直接用例を拾っている。これについてはすでに宮田 1997 で報告しているので繰り返しを避け、「作」の例をあげておくにとどめる。(*)は相応する用例が康熙字典にあることを示す。

(中国語)	(華英)
*聖人作萬物觀 When sages arise..	- -
振作 To excite; to stimulate.	振作 to excite.
發作 To sprout out again; to com-	發作 to commence.
mence; to set in motion again;...	
*作新民 To arouse or stimulate...	- -
知禮樂之情者能作 *作者之謂聖 Those	- -
who understand the nature...	
不求非分不作非爲 Do not desire what	- -
is improper...	
作爲 Actions; conduct.	作爲 action, conduct.
爲非作歹 Perpetrating every species	作歹 to do wickedness.
of crime.	

大作 Great actions;to act vigorously.	大作 great actions.
大有作爲 One who performed great actions..	- -
下作 Low, immoral conduct.	下作 low conduct.
是個作家 Is a maker, or inventor.	作家 an inventor.
周公作指南車 Chow-kung invented..	- -
創作, 制作 To make first; to invent.	創作 to construct.
作文 To write; to compose.	作文 to compose.
作工夫 To work; to labour.	作工 to work.
作事 To transact business.	- -
*坐作 Sitting, rising.	- -
*將作 A certain official situation.	- -
父作子述 The father commenced, and the son continued.	- -
*Occurs in the sense of 削(To scrape off), and of 詛(To vilify).	- -

メドハーストはもと印刷職人だった。当時マラッカでつくった金属活字は大きすぎるうえに種類も少なかったので、漢字のためのスペースをあけておいて、英語と漢字の音の部分をまず活字にし、つぎに中国人が石版インクを使って転写紙に書いた漢字をひっくり返して石版に写しとるという方法で、『華英字典』を完成させた。当初有力な後援者をもたなかったメドハーストは活字を鑄造する資金もなく、やむなく選んだ方法だった（活字についての詳細は鈴木 1996a, 1996b を参照）。

4. 英華字典 (1847-48) :

English and Chinese Dictionary. in Two Volumes. 第一巻は扉、はしがき、正書法、本文 (pp.1-766)、第二巻は扉、本文 (pp.767-1436) からなる。

3.で述べたように、『華英字典』は主として『中国語字典』と康熙字典をもとにしてつくられた。英華辞典の作成はきわめて高度の中国語力を必要とするので、メドハーストはまず『華英字典』をつくり、つぎに英と華をひっくりかえして『英華字典』を作るという方法をとった。その方法を具体的に示せば、つぎのようである。『英華字典』に句型の見出し語が現れる点に注目しておこう。

(華英)	(英華)
粗: 粗米 coarse rice	→ Coarse: 粗米 coarse rice
動粗 to resort to violence	→ To resort to violence: 動粗
恥: 羞恥 ashamed	→ Ashamed: 羞恥
無廉恥 to be devoid of shame	→ Devoid: 無廉恥 devoid of shame
	(Shameless: 無廉恥)
恥心 a feeling of shame	→ Shame: 恥心
恥惡衣 to be ashamed of bad clothes	→ Ashamed: 恥惡衣 to be ashamed of bad clothes
恨: 怨恨 resentment	→ Resentment: 怨恨
大恨 great wrath	- -
雪恨 to wreak one's vengeance	→ To wreak one's vengeance: 雪恨
讎恨 enmity	→ Enmity: 讎恨
恨不得 oh that!	→ Oh: 恨不得 oh that!
悔恨 regret	→ To regret: 悔恨
可恨 detestable	→ Detestable: 可恨的
結恨 to contract enmity	→ To Contract: 結恨 to contract enmity

まず『華英字典』から、10 ページごとに約 10 例ずつ 100 ページまで、以下全巻を通じて計 442 例を抽出して調べたところ、その 8 割強に当たる 361 例が『英華字典』に採られていることがわかった。採られていない 81 例のうち 12 例は固有名詞、虫や植物の種類などの特殊用語だった。メドハーストは煩雑をきらって、特殊用語を『英華字典』に載せることを意識的に避けており、'hill' 'animal' などの項には、『華英字典』を参照するようという趣旨の但し書きがついている。

「はしがき」によれば、用例の大半は中国の文献からの抜粋であり、『中国語字典』からも語句を拾ったという。『中国語字典』の第三部は英華で、『英華字典』と完全に一致するもの (Ability: 聰明、能幹、大器、小器; Abroad: 船上、在船、下船) もあり、第三部の句や文の一部が『英華字典』に入ったとみられるものもある (Able 他能幹辦事→能幹辦事, 他大積聚了財帛→積聚; Leaf 山中樹葉盡落→樹葉盡落; Leave 出必告反必面→出必告)。こうして『中国語辞典』の漢字語 (2 字語以上のもの) の約 5 割が『英華字典』に吸収されている。

5. 後続辞典への影響:

鄭其照 (全福) 『字典集成』 (1868) は中国人の手になる初の英華辞典で、その底本とし

て使われたのが、メドハースト『英華字典』だった。この事実は前述のように両書の句型の見出し語 (Absence of mind; Abstinence from food) と不定冠詞のつく見出し語 (An absentee; An abstract) がほぼ完全に一致することから証明できる。『字典集成』の諸版には『字典集成』(1875)、『華英字典集成』(1887, 1899)、『増廣華英字典』(1896)、『商務書館華英字典』(1899) などがある。初版の 1868 年版は発行部数のごくわずかだったので、後続辞典に影響をあたえる役はもっぱら第 2 版の 1875 年版がうけもつことになる。

1875 年版はロブシャイト『英華字典』(1866-69) の訳語を多数とりいれているが、『商務書館華英音韻字典集成』(1903) の序に、‘鄭其照のしたことといえば、ロブシャイトから抽出して写すことだけだった’ (The work of Mr. Kwong Ki-chiu was simply that of extracting and copying from the work of Dr. Lobscheid) とあるのはいささか穏当を欠くいかたで、両書の一致率は 5 割強、‘抽出して写す’ だけにしては少なすぎる。また 1875 年版を直接の出典とする諸辞典には、點石齋『華英字典』(1879)、黄少瓊『字典彙選集成』(1895)、永峰秀樹訓訳『華英字典』(1881) がある。

J. C. Hepburn 『和英語林集成』初版 (1867) へのメドハースト『英華字典』の影響については、森岡 1991 に詳しい解説がある。また堀達之助『英和对訳袖珍辞書』とのかかわりについては、呉 1988; 遠藤 1996, 1999; 堀・遠藤 1999 を参照。

6. まとめ

メドハーストの諸辞典、特に『華英字典』と『英華字典』の訳語 (漢字語) は康熙字典をベースにしながらも、2~4 字の短いものを主体としたため、容易に後続辞典に吸収されていった。後続辞典の訳語をたどっていくと、英華辞典類のなかではメドハーストにまでさかのぼるものが少なくない。鄭其照による中国初の英華字典、『字典集成』(1868) への道をひらいたという意味でも、メドハースト『英華字典』の辞書史上における役割は、再評価されてしかるべきものと思う。

注:

1. S. W. Williams 『漢英韻府』(1874) の序説に ‘メドハースト による康熙字典の翻訳を愛用した’ (DR. MEDHURST's translation of Kanghi Tsztien has been much used) とある。ただし『漢英韻府』とメドハースト『華英字典』の一致率はさほど多くない。
2. J.C. Hepburn の署名入り贈呈本が、明治学院大学図書館にある。また W. H. Medhurst 1838: 341-343 に、和書を借りだした云々、と関連記事がある (In the year 1827, the author was obligingly furnished with the loan of some Japanese books...). これを翻刻したものが井上修理校正・村上英俊関『英語箋 (一名、米語箋)』(安政 4 年、1857) である。
3. A. Wylie 1967, D. MacGillivray 1979, 李志剛 1985 の記述を要約した。新聞に関しては卓

南生 1990、宗教関係の著作については吉田 1997：117-130 に詳しい。

4. モリソン著『廣東省土話字彙』（*Vocabulary of the Canton Dialect*）は 1828 年にマカオで出版された。当時広東にはヨーロッパ各国の商館があり、清国側との仲介を独占していたひと握りの‘行商’を通じて、莫大な利益をあげていた。広東語の学習者がふえる背景にはこうした事情があった。ほかにも広東とマカオに特有の表現やこの地域の商売情報を収めた語彙集（*Vocabulary, Containing Chinese Words and Phrases Peculiar to Canton and Macao; and to the Trade of Those Places*）が、1824 年に出版されている。扉に編者名はなく、NOTE に J. F. D. とある。香港総督に任ぜられた John Francis Davis と思われる。

参考文献

- 森岡健二 1969『近代語の成立』明治書院（改訂 1991）
- 矢沢利彦 1972『中国とキリスト教』近藤出版社
- 李 志剛 1985『基督教早期在華傳教史』台北
- 呉 美慧 1988「『英和对訳袖珍辞書』の訳語に関する一考察—メドハーストの『華英字典』との関係」『国語学 研究と資料 12』早稲田大学
- 卓 南生 1990『中国近代新聞成立史』ベリかん社
- 高橋俊昭 1991「中村敬宇と英語辞書」『英学史研究』第 24 号 日本英学史学会
- 沈 国威 1994『近代日中語彙交流史』笠間書院
- 1999『『六合叢談』1857-58 の学際的研究』白帝社
- 伊藤泉美 1994「印刷・出版・教育方面における横浜の中国人」『横浜の本と文化』横浜市立中央図書館
- 内田慶市 1995a「商務印書館『英漢字典』の系譜」『関西大学文学論集』第 44 巻 1-4 号
- 1995b「『英漢字典』の系譜」『関西大学東西学術研究所報』第 61 号
- 1998「Kuang Qizhao『華英字典集成』」『関西大学中国文学科紀要』第 19 号
- 1999「『黒茶』から『紅茶』へ—『六合叢談』に見える『紅茶』」『『六合叢談』1857-58 の学際的研究』白帝社
- 遠藤智夫 1996「『英和对訳袖珍辞書』とメドハースト『英漢字典』—抽象語の訳語比較—A-H」『英学史研究』第 29 号 日本英学史学会
- 1999「『英和对訳袖珍辞書』とメドハースト『英漢字典』—抽象語の訳語比較—I-Z（完結編）」『英学史研究』第 32 号 日本英学史学会
- 堀孝彦・遠藤智夫 1999『『英和对訳袖珍辞書』の遍歴—目で見える現存初版 15 本—』辞游社
- 鈴木広光 1996a「中国プロテスタント活版印刷史料訳稿（上）」『印刷史研究』第二号 印刷史研究会
- 1996b「中国プロテスタント活版印刷史料訳稿（下）」『印刷史研究』第三号 印刷史研究会
- 吉田 寅 1997『中国プロテスタント伝道史研究』汲古書院
- 荒川清秀 1997『近代日中学術用語の形成と伝播—地理学用語を中心に—』白帝社

- 1998a 「ロプシャイト英華字典の訳語の来源をめぐって」 - 『文明 21』創刊号
愛知大学国際コミュニケーション学会紀要
- 1998b 「近代日中学術用語の研究をめぐって」 『中国 21』 vol.6 愛知大学現代中国学会
- 1999 「『六合叢談』における地理学用語」 『『六合叢談』1857-58 の学際的研究』
白帝社
- 2001 「近代中国語成立における日本語の役割」 『西洋近代文明と中華世界』
京都大学学術出版会
- 宮田和子 1997 「W.H. Medhurst 『華英辞典』に現れた康熙字典の用例 - R. Morrison 「字典」との比較 -」 『英学史研究』第30号 日本英学史学会
- 1998 「鄺其照『字典集成』の系譜」 『中国研究月報』603号 中国研究所
- 1999 「井上哲次郎『訂増英華字典』の典拠 - 増補訳語を中心に -」 『英学史研究』
第32号 日本英学史学会
- 2000 「井上哲次郎『訂増英華字典』の典拠 - 動詞の自他、分詞、付録を中心に -」
『或問』第1号 近代東西言語文化接触研究会
- 八耳俊文 1999 「自然神学と自然科学の間で - 『六合叢談』の科学伝道」 『『六合叢談』
1857-58 の学際的研究』白帝社
- 杉本つとむ 1999a 『辞書・事典の研究 I』杉本つとむ著作選集 6 八坂書房
- 1999b 『辞書・事典の研究 II』杉本つとむ著作選集 7 八坂書房
- 1999c 『日本英語文化史の研究』杉本つとむ著作選集 8 八坂書房
- フェデリコ・マジーニ 2001 「宣教師が中国語に与えた影響について」 『西洋近代文明と中華世界』
京都大学学術出版会
- W.H. Medhurst. 1838. *China: Its State and Prospects*. London
- R. Morrison's widow. 1839. *Memoirs of the Life and Labours of Robert Morrison*
D.D. Longman, Orme, Brown, Green and Longmans, London
- A. Wylie. 1967. *Memorials of Protestant Missionaries to the Chinese* rep.
Cheng-wen Publishing Company, Taipei
- The China Mission Hand-book*. 1973. rep. Cheng-wen Publishing Company, Taipei
- D. MacGillivray. 1979. *A Century of Protestant Missions in China*. rep. Chinese
Materials Center, Inc., San Francisco
- S.W. Barnett and J.K. Fairbank. 1985. *Christianity in China*. Cambridge (Mass.) and London

付記：脱稿後鄺其照『華英字典集成』（1882）を入手する機会に恵まれた。これも一見ロプシャイト風だがやはり引き写しとはいいにくく、1868版や1875版と一致する語が多い。鄺其照は1875年Hartfordの中国教育委員会のメンバーに選ばれ、辞典編集には絶好の環境に身を置いた。経歴は謎とされてきたが、石竈『晚清留美幼童命運剖析——観念与悲劇』（1999）が出て、初回留学生グループの一員鄺栄光の叔父であることが明らかになった（p.88）。